

シリーズ 市政の今

活力あるまちづくり

海・港を活かした 魅力あふれるまち

第7次舞鶴市総合計画に基づき、まちづくりの方向性や市の取り組み施策・事業をお伝えする「市政の今」。今回は、まちづくり戦略「活力あるまちづくり」から「海・港を活かした魅力あふれるまち」の施策をお伝えします。



①すっかりお馴染みとなったコスタネオロマンチカ ②ドライブ&クルーズができる港として定着 ③ツアーで田辺城を訪れるクルーズ客 ④クルーズビジネス活性化会議には多くの事業者などが参加 ⑤外国人で賑わうキャッシュレス導入店舗

海とともに 発展してきたまち

舞鶴市は古くから自然の地形に恵まれた天然の良港として、海からたくさんの恵みを受け、海と共に発展し、歴史、伝統、そして文化を育んできました。明治時代以降は、計画的な都市づくりの推進などにより大きく発展し、地理的にも重要なこの舞鶴港は、平成23年に日本海側拠点港に選定されています。このように、海と共に歩んできた歴史と豊かな自然・海・港などの魅力ある資源は、観光・産業・暮らしに密接に関係し、このまちにはなくてはならないものとなっています。

関西経済圏の日本海側の 玄関口京都舞鶴港を活かした 産業の振興

毎夏、西港で見られるコスタネオロマンチカの黄色の煙突は、舞鶴市にとってすっかりお馴染みの景色となりました。平成28年からスタートしたコスタクルーズの日本海周遊クルーズ。乗降船ができるのは舞鶴、金沢、福岡の3港で、その中でも京都舞鶴港は無料駐車場を備えており、子ども連れの家族などが自家用車で西港までやってきて、クルーズ旅行に出発する「ドライブ&クルーズ」ができる港として定着しています。ドライブ&クルーズは車から荷物を降ろすすぐに乗船でき、大きな荷物を持つ移動することが少ないということから、乗船口の西港の駐車場では、京阪神のみならず、東海地方や四国地方のナンバーの車も多く見かけます。また、コスタネオロマンチカの入り口には、田辺城や五老スカイタワーなど市内の観光地を巡る香港地ツアーが催されると共に、路線バスやタクシーで赤れんがパークや海上自衛隊北吸気橋まで足を伸ばすクルーズ客の姿を見ることができ、その多くが現役で今なおその姿をとどめています。

海軍ゆかりの面影が随所に残る本市は、日本近代化の躍動を体感できるまちとして平成28年に「日本遺産」に認定されたほか、平成29年には「日本の20世紀遺産20選」の一つにも選ばれました。これらの近代化遺産と海軍ゆかりの食文化（海軍カレーをはじめとした洋食文化）を本市ならではの魅力として発信し、観光客の増加を目指しています。

一方、本市の西地区は、細川幽齋ゆかりの城下町として発展しました。関ヶ原の戦いの前哨戦とされる「田辺籠城」では、文化人として知られた幽齋が、文化の力で城を守った「古今伝授」の逸話が語り継がれています。来年のNHK大河ドラマ「麒麟がくる」では、主人公の明智光秀の盟友として細川幽齋（藤孝）も登場します。これを機に、細川幽齋ゆかりの城下町として、西地区城下町の歴史と魅力を広く発信していきます。

《観光振興課》

魅力をひきだす 観光まちづくりの推進

本市の東地区は、明治34年の海軍鎮守府の開庁に合わせ、近代的なまちとして整備されま



施策に関するご意見を

今号の施策に関するご意見やご感想をお寄せください。市民や事業所の皆さんと一緒にまちづくりを進めていきます。

▶詳しくは、みなと振興・国際交流課（☎66・1037）、観光振興課（☎66・1024）へ。



①日本遺産構成文化財の旧舞鶴鎮守府軍需部倉庫 ②普段は非公開の東山防空指揮所跡 ③田辺城まつりでは地元の子も達が芸屋台子供歌舞伎「田辺籠城」を披露 ④西駅交流センターで開催されている細川幽齋パネル展

《みなと振興・国際交流課》